

## 「トランプ大統領就任」

ジェットロで20年勤務後、ニューヨークで起業して12年。マーケティング、ロジスティクス、そしてオペレーションの面から、北米への進出をサポート。日本企業とのパートナーシップを基に、日本の優れた商品を北米市場に紹介している。



### ＜第47代大統領にトランプ氏が就任＞

1月20日（月）、トランプ氏が第47代アメリカ合衆国大統領に就任しました。通常、就任式は屋外で行われますが、今回は天候の影響が懸念されたため、ワシントン D.C.の連邦議会議事堂内で実施されました。



写真：ウィキペディア（Wikipedia）：フリー百科事典

写真の右上には、イーロン・マスク氏（テスラCEO）、サンダー・ピチャイ氏（アルファベット・グーグルCEO）、ジェフ・ベゾス氏（Amazon 創業者）、マーク・ザッカーバーグ氏（Meta CEO）が並んでおり、大統領や副大統領に近い位置で参列しています。

シリコンバレーのテクノロジー企業は、従来、民主党寄りのイメージがありましたが、トランプ政権はこれらの巨大テック企業との関係を重視していることが伺えます。

また、1月19日（日）には、パレスチナ・ガザ地区での戦闘をめぐる、イスラエルとイスラム組織ハマスとの間で停戦合意が発効するなど、トランプ大統領の就任は国際情勢にも影響を及ぼしていると考えられます。

### ＜アメリカ・イズ・バック（America is Back）＞

「アメリカ・イズ・バック（America is Back）」というフレーズは、もともとトランプ政権後にバイデン前大統領が、米国の外交政策を国際協調路線に戻すことを表明するために使った言葉です。しかし、執筆時点では、ホワイトハウスの公式サイトトップページに、遠くを指差すトランプ大統領の姿とともに、このスローガンが掲げられています。



出所：ホワイトハウス HP

トランプ大統領にとって、この4年間は「失われた時間」であり、自身の再登場によって「本来のアメリカの姿に戻ったと訴えたいのかもしれない。

### ＜翻弄されるメディア、外交、国民＞

トランプ大統領は、4年間の下野期間中に周到に準備を重ねたのか、次々と新政策を打ち出しています。その多くは選挙期間中に訴えていた内容ですが、あまりにも頻繁に新たな政策が発表されるため、論点が分散し、民主党寄りのメディアも一斉に批判を集中させるのが難しくなっているようです。

連邦官報（Federal Register）によると、就任後ちょうど1か月の時点で、トランプ大統領は68本の大統領令に署名しました。これは、バイデン前大統領が4年間で署名した162本、トランプ大統領の第1期（2017～2021年）で発令した220本と比較しても、極めてハイペースであることがわかります。

### ＜「分からない」(Unpredictable)＞

ジェットロが緊急に実施した「米国トランプ新政権の政策に関するクイックアンケート調査」によると、北米進出の日系企業の約48%が「新政権の政策が自社にどのような影響を及ぼすか、現時点では分からない」と回答しています。また、外交政策については、トランプ大統領自身が「Unpredictable（予測不能）であるべき」と繰り返し述べていることもあり、突拍子もない発言や行動は意図的に行っている可能性が高いと考えられます。

### ＜関税を武器に交渉＞

トランプ政権は、メキシコやカナダとの交渉において、既に報道されている通り、高関税を交渉材料として有利な条件を引き出そうとしています。

最近の報道では、自動車に対しても4月から25%の関税措置を課す可能性が示唆されており、日本もその対象に含まれる可能性は否定できません。自動車は日本の基幹産業であり、年間約20万台を米国に輸出しているマツダの本社を擁する広島にとっても、これは無関係な問題ではありません。今後の日本政府の交渉に大いに期待したいところです。